

基礎原案での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.38	行	26行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(鳥飼地区)		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	摂津市		地先	鳥飼	

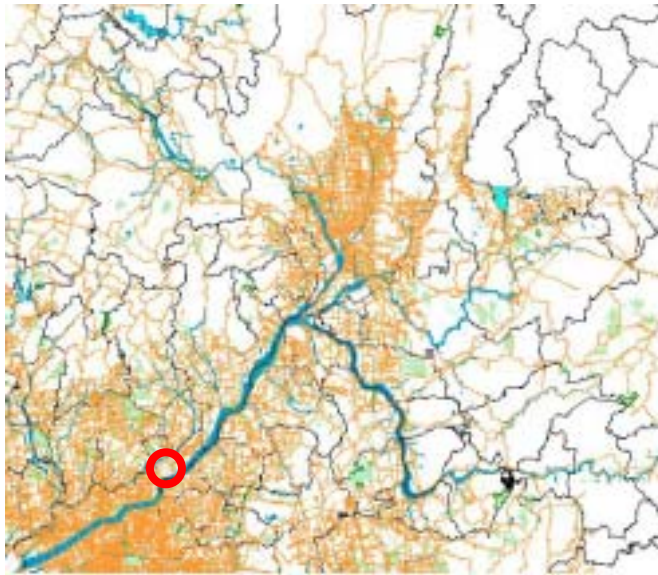
現状の課題

琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少、低水護岸整備や琵琶湖の湖岸堤・湖岸道路等の設置により水陸移行帯を分断しているところがある等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

河川整備の方針

生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向の連続性、湖と河川や陸域との連続性を持った生物の生息・生育環境の確保や、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

位置図



具体的な整備内容

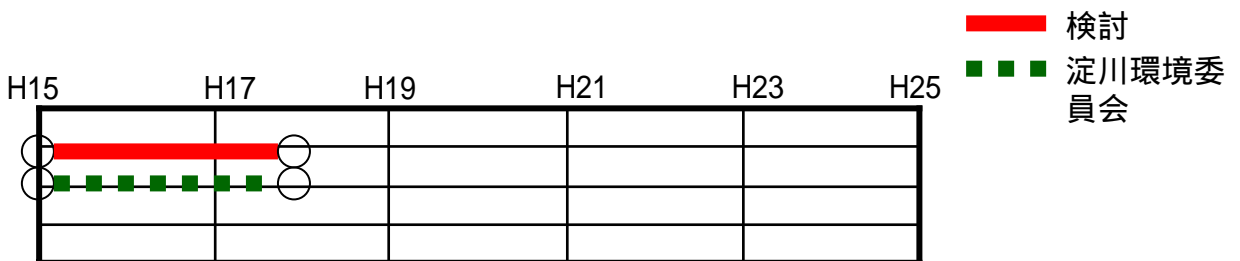
横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

・検討内容

- ・ワンド・たまりの再生、創造
- ・ヨシ原の再生、創造
- ・対象エリアの環境調査(魚介・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

面積:約10ha

スケジュール



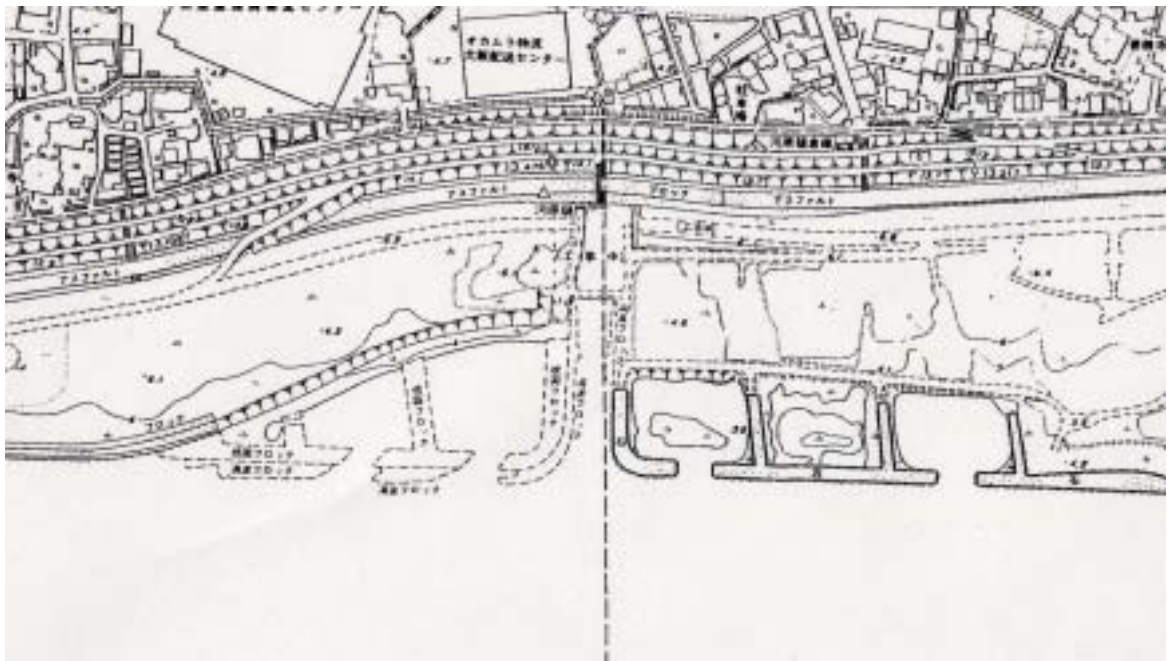
平面図

検討

ワンド・たまりの再生、創造
ヨシ原の再生、創造



平面図



整備効果

1. 事業効果

人工ワンドではあるが、群として多様な環境を有したワンドが整備されており、下流のワンド・たまりと水陸移行帯とを合わせて保全することで、生態的回廊としての効果が期待できる。

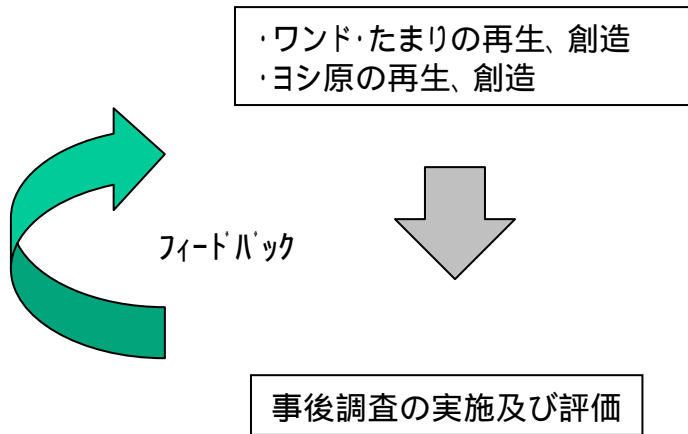


提案理由(代替案含む)

1. 箇所決定理由

人工ワンドではあるが、群として多様な環境を有したワンドが整備されており、淀川生態系の核となっているため、保全・復元の効果が期待できる。

2. 検討手法



基礎原案での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.38	行	27行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(向島地区)		河川名	宇治川			
府 県	京都府	市町村	宇治市	地先	向島		

現状の課題

琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少、低水護岸整備や琵琶湖の湖岸堤・湖岸道路の設置により水陸移行帯を分断しているところがある等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

河川整備の方針

生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向の連続性、湖と河川や陸域との連続性を持った生物の生息・生育環境の確保や、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

位置図



具体的な整備内容

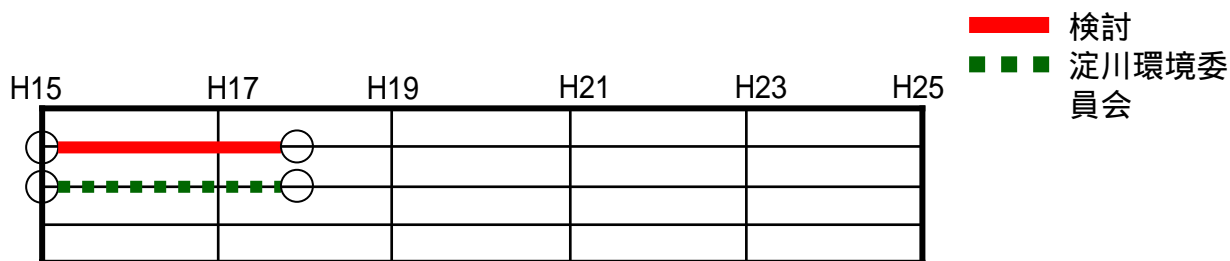
横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

・検討内容

- ・宇治川最大のヨシ原の再生の検討
- ・ツバメの近畿地方最大規模のねぐら地の保全
- ・対象エリアの環境調査(魚・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

面積:約100ha

スケジュール



現況写真



模型飛行機場やグラウンドの存在、架橋工事による周辺環境の改変、など的人為的な攪乱により、現況では好ましいヨシ原となっていない



向島地区にとって好ましいヨシ原の再生・創出

状況

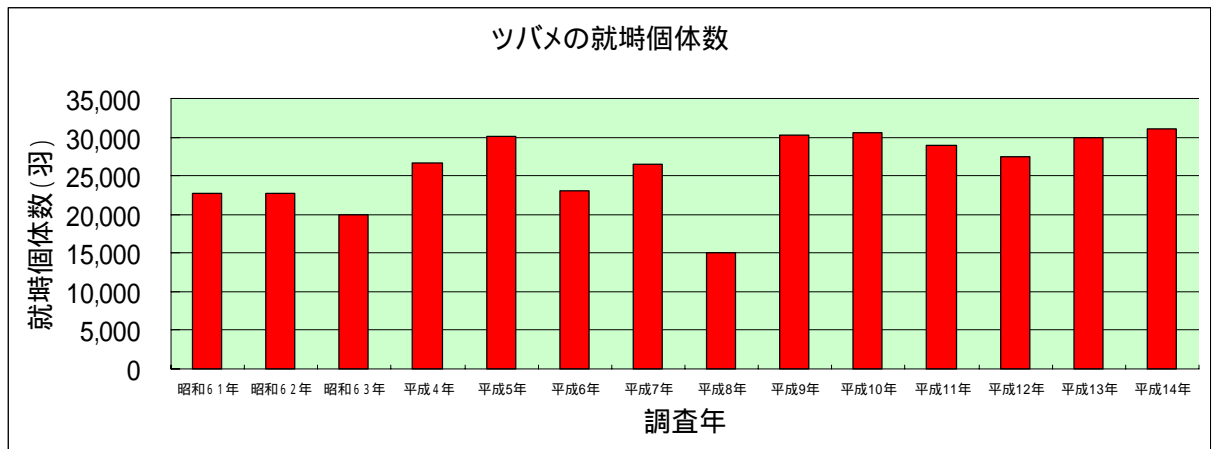


ヨシ・オギ群落(ツバメの埒)

整備効果

1. 事業効果

宇治川向島のヨシ原は、非湿地性のヨシ群落を形成しており、ヨシ群落の保全も重要であるが、近畿地方で最大規模のツバメのねぐらを確保するものであり、河川生態系の保全が図られる。



提案理由(代替案含む)

1. 箇所決定理由

水位の低下により川沿いの攪乱域や湿地帯が減少したことで、生物の生息環境も失われつつある。広大なヨシ原は多様な生物の生息、生育場所であり、淀川生態系の核となっているため、その保全・復元による効果が期待できる。

2. 検討手法

- ・宇治川最大のヨシ原の再生の検討
- ・ツバメの近畿地方最大規模のねぐら地の保全
- ・対象エリアの環境調査(魚・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

基礎原案での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.38	行	28行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(中津地区)		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	大阪市北区		地先	中津	

現状の課題

琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少、低水護岸整備や琵琶湖の湖岸堤・湖岸道路の設置により水陸移行帯を分断しているところがある等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

河川整備の方針

生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向の連続性、湖と河川や陸域との連続性を持った生物の生息・生育環境の確保や、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

位置図



具体的な整備内容

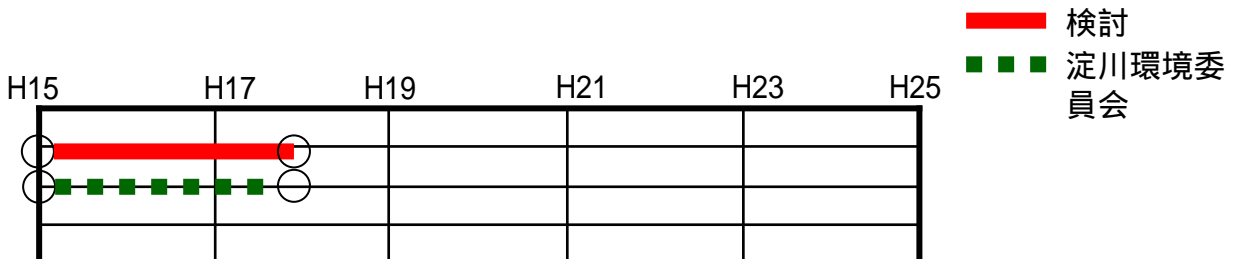
横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

・検討内容

- ・干潟の保全・創出の検討
- ・ヨシ原の保全・創出の検討
- ・対象エリアの環境調査(魚介・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

面積:約7.5ha

スケジュール



現況写真



中津地区の現況干潟とヨシ原

現況写真



中津地区の現況干潟とヨシ原

整備効果

1. 事業効果

汽水域の干潟、及びヨシ原として大規模な自然環境を有しており、底生生物の生息環境、鳥類の飛来等からも貴重である本地区及び海老江地区、大淀地区との連続性を図ることで、生態環境の保全が図られ、汽水域生態系の保全に貢献できると考えられる。



海老江地区

大淀地区

中津地区

提案理由(代替案含む)

1. 箇所決定理由

広大なヨシ原と干潟が残存しており、注目すべき生物として、植物では、ウラギク、鳥類では、干潟を代表するイソシギ、ヨシ原を代表するセッカが確認されている。淀川生態系の核となっている重要な場所の一つであり、大淀地区、海老江地区との連続性を図ることにより、汽水域生態系の保全効果が期待できる。

2. 検討手法

- ・干潟の保全・創出の検討
- ・ヨシ原の保全・創出の検討
- ・対象エリアの環境調査(魚介・鳥・植物等)
- ・保全対策後の生物環境回復の予測

基礎原案での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.38	行	29行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(高田地区)		河川名	藻川			
府 県	兵庫県	市町村	尼崎市		地先	高田	

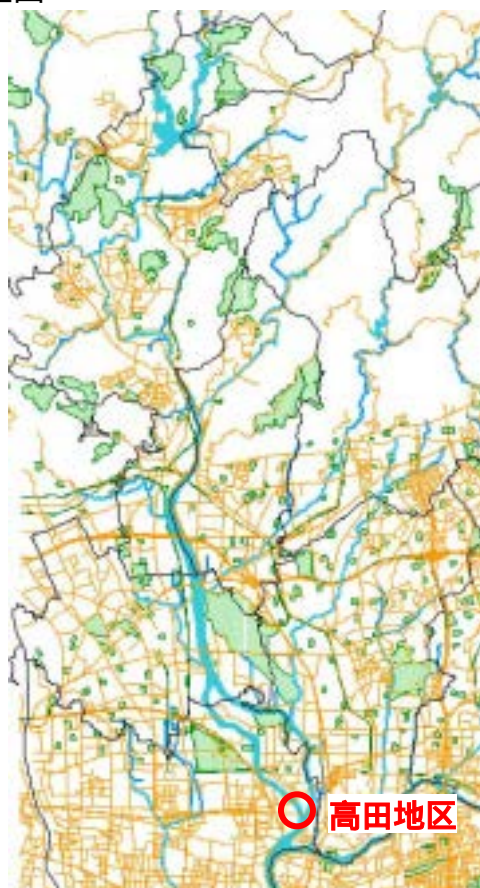
現状の課題

琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少、低水護岸整備や琵琶湖の湖岸堤・湖岸道路の設置により水陸移行帯を分断しているところがある等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

河川整備の方針

生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向の連続性、湖と河川や陸域との連続性を持った生物の生息・生育環境の確保や、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

位置図



具体的な整備内容

横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

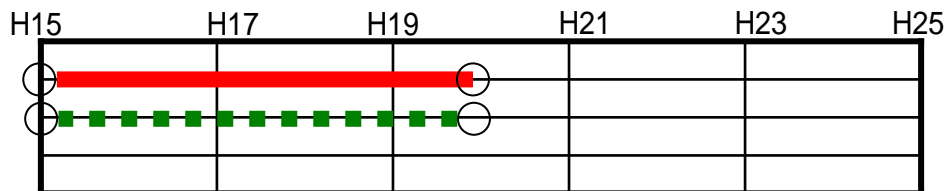
検討内容

- ・現地調査・既存資料による環境把握
- ・モニタリング方法の検討
- ・保全地区及び再生地区の選定
- ・汽水域を保全・再生するための方策の検討
- ・住民や住民団体等の意見の反映方法の検討
- ・改善後の河川環境の保全・再生の予測
- ・環境委員会(仮称)の設置

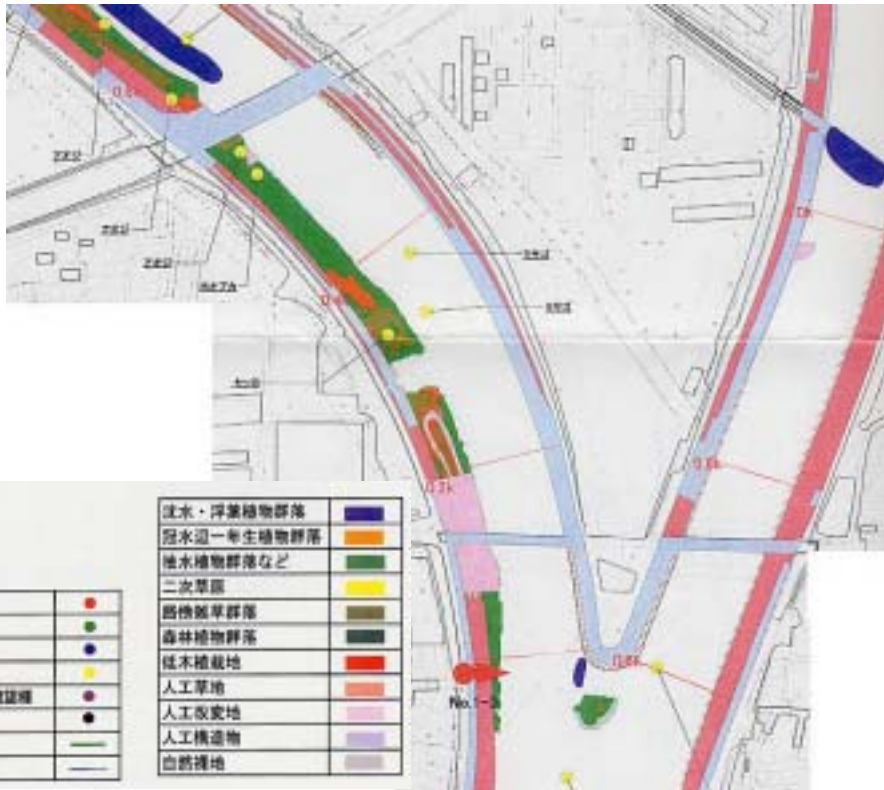
検討範囲 延長：約 1,000m

スケジュール

■ 検討
■ 委員会



平面図



猪名川環境情報図より データ:河川水辺の国勢調査など(植物はH11年)

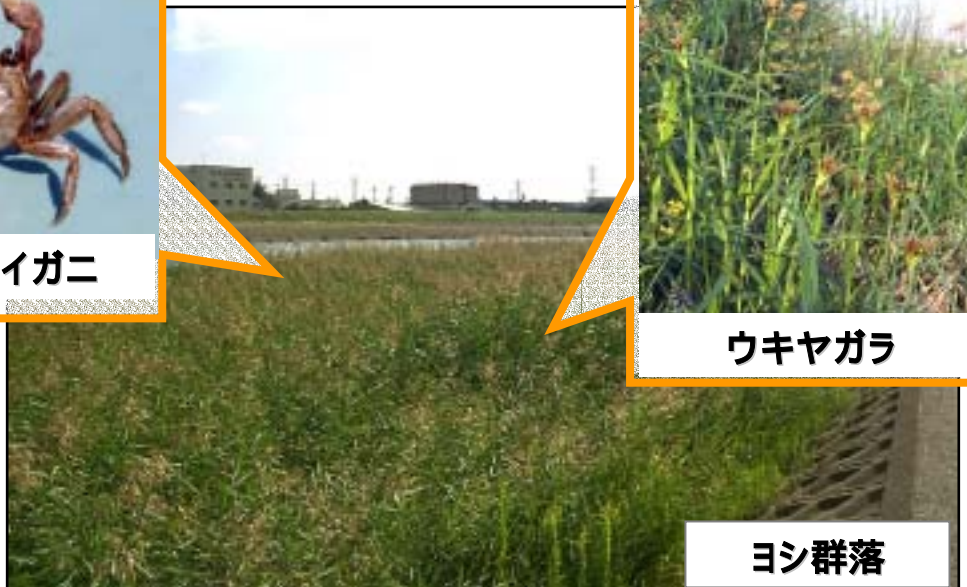
現況写真



クロベンケイガニ



ウキヤガラ



ヨシ群落

平成11年10月撮影

整備効果

1. 事業効果

現在でもまとまった規模のヨシ群落があり、この汽水域を好み生息・生育する動植物も確認されるなど、汽水域での生態系が形成されている良好な生態環境が残されている。しかし一方では、水位変動や攪乱の減少等で冠陸化傾向になり、水辺環境に陸域を好む植物(外来種等)が侵入して来ている。

本検討に基づき事業を実施した場合、侵入する植物(外来種等)を駆逐し、これまでの藻川下流部の汽水域のヨシ原の保全、再生を図ると共に、そこを生息地とする動物の生息環境の保全、再生する効果も期待される。

2. 委員会の設置

河川環境にあたっては、多様な要素が複雑に依存し形成されていることから環境に関する各種の検討について専門的知識が必要となる。そのため環境に関する学識経験者等で組織する“環境委員会(仮称)”を設置し、また検討段階から住民や住民団体等の意見聴取・反映を行いながら検討を行う。

環境保全・再生の事例

読売新聞 平成11年9月14日

加古川下流の河川改修と、建設事務所 顧問に生きていること、スズキなどの魚類も確認され、元の生態系も復活しつつある。汽水域でのヨシ原保全は兵庫県では初めて、全国でも稀な事例と見られる。

（三木 忠志）

ヨシは水辺に生育する多年草。葉やリンを吸収するため水質浄化に役立つ。鳥や魚のすみかにもなる。河川下流には開陸に広大なヨシ原が広がっており、貴重な生態系が壊されている。救出の対象となったのは、最下流ほど近い山崎橋から上流にかけての約一・五キロ区間。副都心川でもヨシを守る取り組みが実施されている。一九九六年七月、橋が付いたままの状態に工区外に移植

橋、工事後の九三年に元の場所に戻された。工事自体もヨシなど配置し、土中にコンクリート埋め込む「かくし護岸」を採用し、水際には植木を配した。

建設費は昨年七月十一日に決まった。七月の段階ではまだ堤防が自立していないが、十一月にはほぼ全面がヨシが覆った。現在は二メートル以上育ったヨシが三メートル高くなり、ほぼ工事前の姿に戻った。

生動物調査でもスズキ、ヒヨドリなど汽水域に生息する魚のほか、ウナギやササガなど種と川を往來する回遊魚も見つかった。シラウオやマサゴイ、メダカなどの希少種も確認された。

建設省・橋路工事業団 自然環境科学研究所 橋路工事業団 橋路工事業団 橋路工事業団

植物生態学」は「建設省や河川でもヨシを守る取り組みがあるが、汽水域でなければ大掛かりな保全は難しく、初めてである。移植して

提案理由(代替案含む)**1. 箇所決定理由**

この地区は、現在でもまとまった規模の汽水域での生態系が形成されている良好な生態環境が残されている。しかし一方では、水位変動や攪乱の減少等で冠陸化傾向が進み、水辺環境に陸域を好む植物(外来種等)が侵入して来ている。これらの植物(外来種等)を駆逐し、汽水環境の保全・再生を図ると共に、そこを生息地とする動植物の生息・生育環境を保全・再生する効果も期待される。

2. 具体的検討手法**生息・生育環境を保全及び再生についての検討**

- 現地調査・既存資料による環境把握
- モニタリング方法の検討
(生態環境、物理環境、水環境等の調査)
- 保全地区及び再生地区の選定
- 汽水域を保全・再生するための方策の検討
(河道特性に応じた形状の設定)
- 住民や住民団体等の意見の反映方法の検討
- 改修後の河川環境の保全・再生の予測
(生態環境、物理環境、水環境等の予測)

**環境委員会(仮称)**

- これまでの調査、検討内容について説明
- 環境改善への方針、方策等について議論
- 住民や住民団体等の意見聴取

基礎原案での記載箇所		章項目	5.2.6	ページ	p.38	行	30行目
事業名	生息・生育環境の保全と再生の検討(東園田地区)		河川名	藻川			
府 県	兵庫県	市町村	尼崎市		地先	東園田	

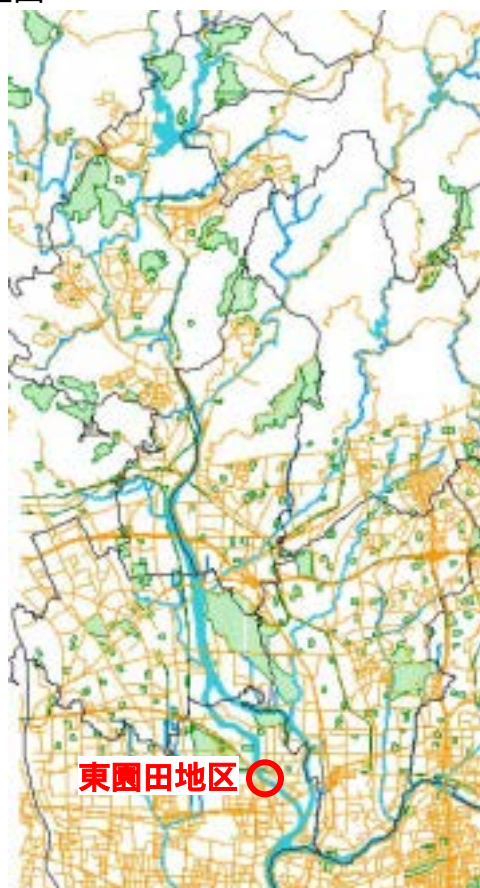
現状の課題

琵琶湖における内湖、淀川の干潟やワンド等の湿地帯、瀬と淵の減少、低水護岸整備や琵琶湖の湖岸堤・湖岸道路の設置により水陸移行帯を分断しているところがある等河川形状の変化、水質や底質の悪化、水位変動の減少や外来種の増加並びに水田を産卵の場としていた魚類の移動経路の遮断等様々な要因が、生物の生息・生育環境を改変し、固有種をはじめとする在来種の減少を招いている。

河川整備の方針

生物及び生物の生息・生育環境の現状と変化を的確に把握するため、引き続きモニタリングを実施する。また、河川に流れ込む支川や水路等を含めた河川の横断方向及び縦断方向の連続性、湖と河川や陸域との連続性を持った生物の生息・生育環境の確保や、生物に配慮した水位管理や水量管理等の方策について、関係機関等と連携して検討する。

位置図



具体的な整備内容

横断方向の河川形状を修復し、水陸移行帯を保全しつつ、再生についても検討する。

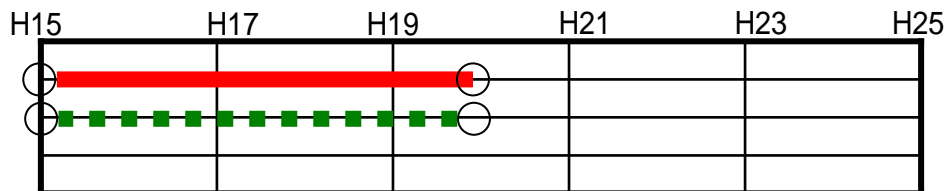
検討内容

- ・現地調査・既存資料による環境把握
- ・モニタリング方法の検討
- ・保全地区及び再生地区の選定
- ・汽水域を保全・再生するための方策の検討
- ・住民や住民団体等の意見の反映方法の検討
- ・改善後の河川環境の保全・再生の予測
- ・環境委員会(仮称)の設置

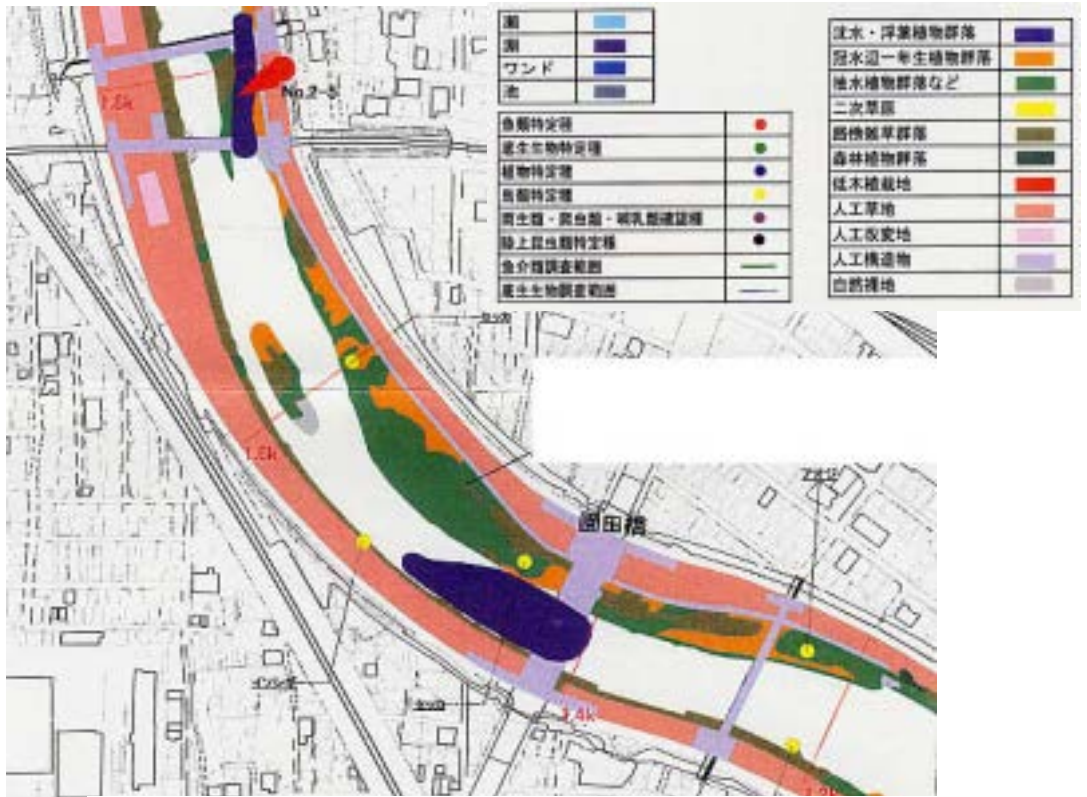
検討範囲 延長：約 600m

スケジュール

■ 検討
■ 委員会



平面図



猪名川環境情報図より データ:河川水辺の国勢調査など(植物はH11年)

現況写真



平成11年9月撮影岸

整備効果

1. 事業効果

現在でもまとまった規模のヨシ群落があり、この汽水域を好み生息・生育する動植物も確認されるなど汽水域での生態系が形成されている良好な生態環境が残されている。しかし一方では、水位変動や攪乱の減少等で冠陸化傾向になり、水辺環境に陸域を好む植物(外来種等)が侵入して来ている。

本検討に基づき事業を実施した場合、侵入する植物(外来種等)を駆逐し、これまでの藻川下流部の汽水域のヨシ原の保全、再生を図ると共に、そこを生息地とする動物の生息環境の保全、再生する効果も期待される。

2. 委員会の設置

河川環境にあたっては、多様な要素が複雑に依存し形成されていることから環境に関する各種の検討について専門的知識が必要となる。そのため環境に関する学識経験者等で組織する“環境委員会(仮称)”を設置し、また検討段階から住民や住民団体等の意見聴取・反映を行いながら検討を行う。

環境保全・再生の事例

読売新聞 平成11年9月14日

加古川下流の汽水域改修工事で、建設省河川改修工事業所が、同事業所の調査に基づいてヨシを救出しようと試みていたが、移植したヨシが、ヨシ原に生育していること、スズキなどの魚類も確認され、元の生態系も復活しつつある。汽水域でのヨシ移植は兵庫県で初めて。全国でも稀な事例と見られる。

（三木 忠志）

ヨシは水辺に生育する多年草。葉やリンを吸収するため水質浄化に役立つ。鳥や魚のすみかにもなる。同川下流には同様に広大なヨシ原が広がっていたが、農業が盛んになり、排水の放出の対象となったのは、最下流ほど近い山崎橋から上流にかけての約一・五キロ区間。財団法人「環境再生センター」が、この区間を再生させるため、一九九六年七月、調査を行った。同センターは、この区間のヨシ原を再生させるため、ヨシを救出し、移植した。ヨシ原は、一九九九年七月、調査を行った。同センターは、この区間のヨシ原を再生させるため、ヨシを救出し、移植した。

加古川下流の汽水域改修工事で、建設省河川改修工事業所が、同事業所の調査に基づいてヨシを救出しようと試みていたが、移植したヨシが、ヨシ原に生育していること、スズキなどの魚類も確認され、元の生態系も復活しつつある。汽水域でのヨシ移植は兵庫県で初めて。全国でも稀な事例と見られる。

（三木 忠志）

ヨシは水辺に生育する多年草。葉やリンを吸収するため水質浄化に役立つ。鳥や魚のすみかにもなる。同川下流には同様に広大なヨシ原が広がっていたが、農業が盛んになり、排水の放出の対象となったのは、最下流ほど近い山崎橋から上流にかけての約一・五キロ区間。財団法人「環境再生センター」が、この区間を再生させるため、ヨシを救出し、移植した。ヨシ原は、一九九九年七月、調査を行った。同センターは、この区間のヨシ原を再生させるため、ヨシを救出し、移植した。

提案理由(代替案含む)**1. 箇所決定理由**

この地区は、現在でもまとまった規模の汽水域での生態系が形成されている良好な生態環境が残されている。しかし一方では、水位変動や攪乱の減少等で冠陸化傾向が進み、水辺環境に陸域を好む植物(外来種等)が侵入して来ている。これらの植物(外来種等)を駆逐し、汽水環境の保全・再生を図ると共に、そこを生息地とする動植物の生息・生育環境を保全・再生する効果も期待される。

2. 具体的検討手法**生息・生育環境を保全及び再生についての検討**

- 現地調査・既存資料による環境把握
- モニタリング方法の検討
(生態環境、物理環境、水環境等の調査)
- 保全地区及び再生地区の選定
- 汽水域を保全・再生するための方策の検討
(河道特性に応じた形状の設定)
- 住民や住民団体等の意見の反映方法の検討
- 改修後の河川環境の保全・再生の予測
(生態環境、物理環境、水環境等の予測)

フィードバック

**環境委員会(仮称)**

- これまでの調査、検討内容について説明
- 環境改善への方針、方策等について議論
- 住民や住民団体等の意見聴取